

### 都城農高の雌子牛「あすか」

# 超高値「454万円」



9日のJA都城5月郡市和牛共進会で優等1席に輝いた都城農業高の「あすか」と畜産研究班の生徒ら一都城市・都城地域家畜市場

## 5月期 競り市 生徒「一生懸命の成果」

JA都城の5月期競り市が18日までの3日間、都城市の都城地域家畜市場で開かれ、最終日に出場した同市・都城農業高の畜産研究班が育てた雌子牛「あすか」に454万5千円の超高値が付いた。学校側が自家保留を前提に競りに臨む中、強い購入希望があつて価格が上がり上つた。同JAによると、同市場では過去最高の価格とみられる。

あすかは同校の三股牧場で生まれ、体重336キ。父「福晴

茂」、母の父「耕富士」。同班の生徒らが日々飼育に励んでおり、5月郡市和牛共進会では同校の子牛としては5年ぶりに優等1席を獲得した。10月に鹿児島県で開催される全国和牛能力共進会の「高校及び農業大学の部」への出場を目指しているため、自家保留されて農場に戻った。競り市には1350頭が出場。1050頭が売却され、平均価格は雌子牛58万3480円、去勢子牛70万6123円だった。あすかについて、同JAの担当者は「あまり聞いたことがない高価格で、発育の素晴らしさが評価につながったのではないかと購入希望者も多かった」と話していた。

生徒はテスト期間だったため、会場では同校畜産科の滝川幸司教諭(52)が代理で引き手を務めた。一報を聞いた同班2年の木幡大和さん(16)は「驚いたが、一生懸命やってきた成果が出てうれしかった」と意欲を新たにしていた。(今村雅世)

★「ブレみや」にも掲載